

アレルギー疾患 医療従事者等研修会 参加者募集

対面開催（無料）
定員 100名



6つの分科会にてアレルギー疾患に関して専門的な知識を有する医療者により、最新の科学的知見に基づいた適切な医療について研修を行います。

会 期

講義

令和8年2月8日（日）13:00-15:55

場 所

兵庫県立はりま姫路総合医療センター 講堂

対 象

アレルギー診療に興味のある医療従事者等

主 催

兵庫県立こども病院（兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院研修当番病院）

開催形式

対面開催 ★可能な限り電車、バスなどの公共交通機関をご利用ください

分 科 会		講義時間
はじめの挨拶（1-3講義の座長） 兵庫県立こども病院アレルギー科 科長 浜田佳奈 先生		13:00-13:05
講義名▶食物アレルギーだと思ったらどうする？ 1 演 者▶兵庫県立はりま姫路総合医療センター 小児科 百々菜月 先生		13:05-13:30
2 講義名▶Total allergistの視点から考える成人喘息 演 者▶姫路聖マリア病院 病院長 金廣有彦 先生		13:30-13:55
3 講義名▶気管支喘息吸入薬の基本と指導の実践 ～デバイス選択と手技習得支援のポイント～ 演 者▶東神戸薬局 薬剤師 下浦志織 先生		13:55-14:20
休憩		14:20-14:35
4 講義名▶アトピー性皮膚炎 -病態そして治療- 演 者▶兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科 診療科長・部長 国定充 先生		14:35-15:00
5 講義名▶アレルギー性鼻炎への対応と治療戦略 演 者▶姫路聖マリア病院 耳鼻いんこう科顧問 小川晃弘 先生		15:00-15:25
6 講義名▶小児アレルギーエデュケーター（PAE）の役割 演 者▶神戸市立医療センター西市民病院 看護師 渡木綾子 先生		15:25-15:50
終わりの挨拶（4-6講義の座長） 兵庫県立はりま姫路総合医療センター 小児科 診療科長 忍頂寺毅史 先生		15:50-15:55

申込方法

専用サイト <https://forms.office.com/r/J5wacntrXR>

または右記QRコードよりお申込みください。

申込期限

令和8年1月18日（日）



主催

兵庫県、兵庫県アレルギー疾患医療連絡協議会

後援

（公財）日本アレルギー協会関西支部、（一社）兵庫県医師会、（公社）兵庫県看護協会、（一社）兵庫県薬剤師会、（公社）兵庫県栄養士会

分科会講義概要

1 食物アレルギーだと思ったらどうする？ 兵庫県立はりま姫路総合医療センター 小児科 百々菜月 先生

食物アレルギーは小児期に多いですが、大人でもみられます。食事管理は成長や発達だけではなく、QOLにも直結しており、安全性を保ちつつ、不要な除去を避けることが求められます。食物アレルギーの診断の進め方、管理、アレルギー症状出現時の対応について紹介します。

2 Total allergistの視点から考える成人喘息 姫路聖マリア病院 病院長 金廣有彦 先生

喘息には診断基準がないため詳細な問診が重要です。喘息症状で最も特異性が高いのは喘鳴ですが、頻度が高いのはほぼすべての呼吸器疾患で認められる咳嗽、喀痰であり鑑別診断は必須です。また、喘息の本態である気道過敏性は検査困難であり過敏性亢進の有無を問診でチェックすることも必要です。本講演では、アレルギー性気道炎症の機序から問診を含めた診断、治療までアレルギー疾患に携わる医療従事者が熟知しておくべき事項について解説します。

3 気管支喘息吸入薬の基本と指導の実践 ～デバイス選択と手技習得支援のポイント～ 東神戸薬局 薬剤師 下浦志織 先生

吸入療法は、経口薬とは異なり、吸入すること自体に工夫とコツが必要であり、正しい手技の習得が治療効果に直結します。ですが、吸入デバイスの種類は多岐にわたり、医療者自身が戸惑う場面も少なくないのではないのでしょうか。本研修会では、各種デバイスの特徴と選択のポイント、現場で役立つ支援のコツについて、実践的な視点からお話し致します。

4 アトピー性皮膚炎 -病態そして治療- 兵庫県立はりま姫路総合医療センター 皮膚科 診療科長・部長 国定充 先生

アトピー性皮膚炎は日本人の小児期で約10%の方が罹患しているといわれています。また2010年代後半までは病態解明に基づく治療薬のいわゆるブレイクスルーがなく、「脱ステロイド療法」等数々の民間療法が錯綜し、患者や家族と医療者が混迷する時期がありました。今回の講演ではアトピー性皮膚炎の病因や最新の治療選択、普段のスキンケアなどについて解説致します。

5 アレルギー性鼻炎への対応と治療戦略 姫路聖マリア病院 耳鼻いんこう科顧問 小川晃弘 先生

アレルギー性鼻炎は増加傾向にあり、対応が必要となる症例数は多い。抗原除去から、薬物療法として抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬の内服あるいは点鼻ステロイド、また抗原が限定される症例にはアレルギー免疫療法、重症難治例には手術療法が適宜選択されることになる。これら専門的治療対応について概説していきたい。

6 小児アレルギーエデュケーター (PAE) の役割 神戸市立医療センター西市民病院 看護師 渡木綾子 先生

小児アレルギーエデュケーター (PAE) とは、日本小児臨床アレルギー学会が認定している資格で、アレルギーの専門知識を持った看護師、薬剤師、管理栄養士がアレルギー疾患を持つ患児とその家族へのアレルギー指導や患児に関わる保育士、教職員また、医療従事者や行政機関職員等への啓蒙活動を行っています。現在、全国で約800名、兵庫県では約70名のPAEが活動しており、そのPAEの活動内容をご紹介します。

問合せ先▶ 兵庫県立こども病院 医事企画課 TEL078-945-7300(代) 内22219